

平成 22 年度

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0270600307		
法人名	有限会社 ケアサービス+和田イースト		
事業所名	グループホーム たかしずの森		
所在地	青森県十和田市相坂字高清水78-54		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=02/0600307&amp;SCD=320">http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=02/0600307&amp;SCD=320</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年12月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

運営者は管理者でありケアマネージャーでもあり、これまで実際介護にも携わっているため職員の立場や利用者の一人ひとりの状態をよく把握しケアサービスに取り組んでいる。施設ではマイクロバスを所有しており、いつ何処へでも外出できる体制をとっており、利用者や家族の希望に応えることができる。病院への通院は施設職員で対応できる人員体制をとっており、家族の負担がなく安心できる。ホームの窓からは間近に電車が通る様子を見ることができ、隣にはコンビニがあり生活感のあふれる環境にある。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

事業所は住宅街にあり、普通の民家のような建物でまさに地域密着型といえる環境である。管理者、職員は、利用者の訴えを叶えさせていただき、又、利用者、家族の希望に応える、を基本としてケアのサービス支援をしている。①笑顔でやさしく接し、触れる。②利用者のペースに合わせる。③ダメという言葉は絶対使わない。④同じ目の高さで接する。などを掲げ管理者、職員は寄り添うケアを実践している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に公正であり、利用者の利益と権利を守りそして「個々の願いを叶えて上げたい」を念頭に援助しており、職員との理念の共有は浸透していると思う。	事業所独自の理念があり、利用者を第一に考えサービスの実践に繋げており、全職員はミーティングや会議で話し合い共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	神社や地元小学校との交流があり、行事等に参加している。ホームの隣近所とは利用者が気軽に声を掛け合うつきあいがあり、ホームの役割を理解してもらっている。	事業所は町内会に加入し、地域の祭りへの参加や小学校との交流があり、小学生と共同でプルタブを集め福祉活動をしている。ご近所の方とは気軽に挨拶を交わしたり、地域の草取りや側溝のゴミ拾い等、日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は地元町内会の役員でもあり、会合の場でホームの役割や認知症の理解のための広報活動に努め、地域との関わりを積極的にやっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス提供の状況や取り組み状況を定期的に報告するとともに、外部評価の結果について話し合いを行っている。	運営推進会議のメンバーは、利用者代表、町内会長、民生委員、家族代表、介護保険課、職員による構成で、サービスの実際や外部評価への取り組み、事故報告等を話し合い、意見をもらいサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上の相談等に協力的に応じており、行政との連携はとれている。	市町村よりスプリンクラー設置の申請の指導を受けたり、運営上の相談にも協力的であり、市町村との関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全を第一義的に考慮し、「身体拘束のないケア」を実践している。やむを得ない場合は家族の同意を得ている。ホーム前の道路は交通量が多く極めて危険であるため、施錠することはやむを得ない状況にある。	事業所の立地環境により、玄関には施錠されているが、利用者の外出は自由でその時は一緒に外出するなどの支援をされている。近隣の人々には見守り、声がけ等、連絡をして貰える関係が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の指導徹底により職員は認識を深めている。管理者は毎日利用者や挨拶を交わすことにより、変化や訴えを把握し虐待が見過ごされることがないように細心の注意をはらい防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関する研修を受講しており、活用できるよう支援している。成年後見制度活用者 3件		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満や訴えには親身に聞き入れ対応している。運営推進会議で公表する機会を設けている。	利用者や家族の意見は事業所の行事や面会時に伺い、運営に反映させて行く取り組みがされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング等で意見や提案を聞いており、検討し反映させている。	職員の意見、気づきはミーティング時や職員会議などで聞き取りをし、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給を実施し給与水準の向上を図っている。また介護職員処遇改善交付金の制度を積極的に活用している。随時就業規則の改定により職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修は計画的に受講させている。働きながら資格取得ができるよう勤務調整をする等支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域同業者とは相互訪問などの交流を行っており、サービス向上に役立てるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こちらから出向き事前面談を行っており、本人の要望や相談に親切丁寧に応えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人と同様、要望や相談に親身になり対応し関係づくりに努めている。施設見学については、利用の有無にかかわらず自由に受入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護者の状況、本人の介護度、心身の状態等を考慮し見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護している」と言う概念を捨て、「一緒に生活をしている」と言う気持ちでケアにあたるよう指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の不安や相談に親身に対応しており、家族と協力しながら本人を支えていくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望する場所への訪問等は可能な限り対応している。帰宅、墓参り、知人宅訪問等	馴染みの美容院や希望する場所、墓参りに行くなど事業所に対応し、馴染みの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の良好なコミュニケーションがとれるよう配慮している。居室の場所、テーブルの座る位置等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	脳梗塞で退所したが、身元引受人が遠方のため、入院の手続きや退院後の施設の手配や身元引受人に代わる行為を行っており、現在も援助を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「利用者の願いを叶えてあげたい」を念頭に援助しており、利用者本位の取り組みを行っている。	利用者の生活歴を理解し、利用者本位のケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の本人や家族からの聞き取り、アセスメントシートにより把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のケア会議により個々の状態把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と介護員との話し合いとモニタリングにより介護計画を作成している。利用者の状況によっては家族からの聞き取りを行っている。	ケア会議で利用者の日常生活を話し合いながらモニタリングをし、ケアプランを作成している。家族の意見は面会時又は電話などで確認し、ケアプランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンによる入所者管理システムを運用している。個別記録情報等は共有できる環境になっており、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り対応していく方針である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元小学校と連携を密にしている。学習活動の一環としての奉仕活動の受け入れ。踊りや音楽の慰問受け入れ。民生委員への情報提供		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診においては、本人と家族が納得する対応を行っている。通院は施設で支援しており、医師と綿密な連携をとっている。状態によっては、認知症の専門医の受診を受けるよう支援している。	利用者、家族の希望に添って、かかりつけ医の受診対応をしている。認知症の専門医受診の対応もしており、通院は事業所対応で行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝のミーティングで体調の変化を報告し、受診の検討をしている。またPCの掲示板に表示し情報の共有をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は、可能な限り施設で対応しており、入退院の送迎、利用者の介護情報の提供、看護師との情報交換等を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去に重度化した事例があり、家族や医師と綿密な話し合いをし、連携をとることができた。	過去に重度化した事例がある。今後も医療関係者と連携をとりながら、本人、家族と話し合い、希望があれば対応可能な体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員の指導による救命講習を実施した。今後定期的に継続していく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難総合訓練を年2回実施しており、随時部分訓練を行い職員に防災意識を持たせるよう努めている。非常時のために地元消防団に協力を要請している。	夜間想定を含め、避難総合訓練は年2回実施している。消防団の協力も要請している。	電源を落として夜の状態を作り、訓練を試みる事を消防からアドバイスを受けたとの事なので、今後実施していただきたい。また、地域の方達の参加を得た訓練も行っていくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保に努めている。	全職員は利用者の人格の尊厳とプライバシー確保についての研修や勉強会をしており、羞恥心を傷つけない対応やプライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意志決定を尊重し納得が得られるような対応を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて援助することを日々指導しており、「ケアスタッフ心得」として共通認識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の購入や理美容については本人の希望する店舗に送迎し対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理や食事の準備をしている。食事は職員と一緒にいき、好み等を確認する場としている。	職員は利用者の健康に留意しながら献立を立て、食事の準備を利用者と一緒に行きながらいき、食欲を高めたり、食事への関心を引き起こすよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に毎食摂取状況を確認しており、水分確保についても個々の状態に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しており、状態によっては歯科受診をすすめている。協力歯科医による検診を施設にて行っており、口腔衛生の指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握するため、排泄管理を行っている。極力トイレ誘導を心掛けており自立支援に努めている。	一人ひとりの排泄管理をしており、排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に排便状況を管理しており、便秘予防と対処に活用されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者の訴えに応え入浴日の変更は柔軟に対応している。週2回入浴	入浴を拒む利用者には柔軟な対応をし、入浴を次の日にするなど入浴を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は廊下や居室の照明を調節し安眠できる環境に配慮している。冬期間は居間にコタツを設置するなど、のんびりできる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの処方薬の説明書を個別ファイルし、職員がいつでも確認できるようにしている。副作用や用量については変化があれば、受診時に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の自立度に応じ、調理、配膳、片付け、清掃、鉢花の手入れ、水やり、犬の散歩、餌やり等の役割を持たせている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り本人や家族の希望は受け入れ支援している。機会ある毎に買い物等の外出に同行させている。また日課にかかわらず、好天の日にはドライブに行くことが多い。	利用者の希望を取り入れ、外出や買い物、ドライブなど、一緒に出かける外出支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ある程度金銭管理のできる利用者には家族了解のうえ小口現金を所持させている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のやりとりは自由にできるように支援している。居室に電話子機を持ち込み対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に違和感のない空間づくりに配慮している。座敷、コタツ、中庭、ウッドデッキ、テラス等設置 居室入口には季節感を採り入れ飾りをつけている。	廊下にはクリスマスツリーが飾られており、季節を感じられる工夫がされている。居間から眺める中庭には木々が見られ、居心地よく過ごせる共用空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間ホール、座敷こあがり、談話コーナー ウッドデッキ、テラス等		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へ馴染みの家具等の持ち込みは自由 にしている。	利用者、家族と相談しながら仏壇や使い慣れた馴染みの者を持ち込んだり、居心地よく過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に合わせた補助具等を製作したり調整し工夫している。バリアフリー、手すり、車椅子対応トイレ、車椅子用エレベーター等設置		